

岡村 和哉 選手・田中 順也 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

6

おかむら かずや
岡村 和哉 選手
DF 34歳
池田町応援大使

今まで出身地を母親が産んだ郷里の岡山県としたが、実際は誕生直後から小中高まで育った兵庫県西宮市出身とも言えます。セレッソ大阪のU-15、U-18でプレーし、吹田市にある大阪学院大学を経て、2010年J2ロアッソ熊本へ加入。その後12年間でJ2リーグへの昇格を3回、J3リーグへの降格を2回経験してきた強者選手です。

ロアッソ熊本では在籍1年半で1試合も出場機会がなく、2011年途中にV・ファーレン長崎へ移籍して活躍し、2013年長崎はJFLリーグからJ2リーグに昇格した。この年の7月からカマタマーレ讃岐へ期限付き移籍し、残り全試合フル出場して讃岐のJFLからJ2昇格にも貢献した。讃岐では2013年から2018年までプレーしたが、2018年にJ3リーグへの降格を経験した。

翌年からJ3のギラヴァンツ北九州に移籍し、優勝してJ2昇格を飾り、2020年、2021年はJ2リーグで戦ったが、再びJ3へ降格となった。今シーズンからはJ2リーグへの3回の昇格経験のある「昇格請負人」ディフェンダーとして、FC岐阜へ加入した。

これまでの彼の体験談から、これからのFC岐阜にとって重要なことは、若い選手達がかもつと必死に練習して激しいレギュラー争いに割り込んで、ポジションを勝ち取ることと思っている。県下42市町村やスポンサーの厚いご支援、ファン・サポーターの応援を考えれば、どれだけ幸せなことを改めて理解して、もっと頑張らなければいけないと語る。最近は最年長の本田選手がいつも練習後に一番遅くまで走り込んで、若手選手達に声を掛けて一緒に練習する姿が見られる。また柏木選手からチーム全体や若手選手達に練習内容についての具体的声掛けや働きかけがあり、全員が向上心に燃えて良くなっている。これは過去経験した昇格チームとも重なる部分があり、もっと強いチームになれると思っている。

この充実したチームで、皆様と昇格を喜び合えるように頑張ります。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

15

たなか じゅんや
田中 順也 選手
FW 34歳
海津市応援大使

東京都板橋区出身で、2009年順天堂大学4年時にJ1柏レイソルの特別指定選手になり、2010年にJ2に降格した柏レイソルに正式加入し、J1昇格を経験。2011年には13得点を挙げ、Jリーグ史上初のJ1昇格初年度優勝に貢献し、柏時代には日本代表に2度選ばれ活躍した。

2014年にはポルトガルのリスボンを本拠地とするスポルティングCPに移籍し7得点を挙げ活躍したが、翌年監督の交代を機に1年半で柏レイソルに復帰した。2017年には柏時代の恩師であるネルシーニョ監督率いるヴィッセル神戸へ移籍。2019年天皇杯では全試合に出場してチームの初優勝に貢献した。2021年でヴィッセル神戸との契約満了を機にJ2昇格を目指すFC岐阜に加入した。これまで心に残る思い出は柏時代のJ1リーグ初優勝と、ポルトガルのスポルティングCP時代にアディショナルタイムでフリーキックから決めた初ゴールで勝利した時で、今も臉に浮かぶシーンだ。

多くの貴重な経験をしてきたが、自分が大事にしてきたことはコミュニケーションの機会に相手の考えをしっかりと聴いて実行してきたことで、自分にとって非常に良かったと振り返る。昇格するためにはチャレンジしていくことが重要。チャレンジすることによって生じる、しても良いミス、してはいけないミスは個人としてもチームとしても学んでいくことができれば、昇格は見えてくると確信している。

生活信条は「人生を全力で楽しむ」であり、選手としてだけでなく私生活でも実践している。学生時代は毛筆3段、硬筆5段まで上がり、プロになってからもレザークラフトでのモノづくりやファッションブランド「CEUEU」を立ち上げたりしている。一方、サッカー指導者としてJFA公認B級ライセンスを取得済みで、今後はA級取得も視野に入れている。

趣味はブラックバス釣りで、ホームタウン応援大使を担当する海津市はメッカであり、既到大江川、中江川、長良川の鑑札を購入してトライしてみたが、素晴らしい環境で今後の釣果を楽しみにしている。

これからのFC岐阜の活躍にご期待ください。